



愛知縣  
史系  
編纂  
之  
目録

豊臣秀吉出陣

一 尾州愛智郡内上中村中村と末村と云新  
有幕府及中之村の事也

天文五年丙申正月大相国丁巳日此と地と  
知名曰吉尾依改后御成言前法任権前舟自  
信名公賜御書及故より海東権前法任國白  
大政大臣賜書尾依亮云の後任豊國大相神  
歌川車山阿弥地と事とつ山の上と地教と文垂  
比中より一集と云平法と権前と入事相權度  
西向廟と遺と人皇百長代

33.7.30 印  
40516

A201  
7

12



三親河院勸世國大明神と勅額今の豊國並  
慶長三年申付八月十八日辛巳日午の刻奉立  
時六十

一秀吉御国和生後宇瑞勢院北山村宮と  
し丸日蓮宗御寺と云くは瑞勢院法名日放院  
と云日蓮宗常樂院と云く聖人と傳ふ宗と宗縁  
北原願下母集と云く世襲人を日放と云く由是  
後瑞勢院の法名を瑞勢と云く後の名は和右入  
一放一史

一秀吉の又ハ中村謙吉と云中村の人々ハ謙吉の

親父織田信長信秀と在瑞勢院に於て宣稱す  
て御の<sup>と</sup>と願ふ所御申中村ハ日也院御史  
を云し瑞勢院も亦ハ持天文十二年死云

一秀吉八歳時父歿ハ母存在河川コキ村と云を  
中津邊也方<sup>と</sup>村と云秀吉ハ瑞勢院とを居所  
と云<sup>と</sup>申す後母後出二人のふと世育し中村宮  
一織田秀吉山村也と云同相有申村のせの者云

一瑞勢院中村<sup>と</sup>也<sup>と</sup>の志是と云く東津邊  
一海又秀吉其母と云名<sup>と</sup>後日男子三人也一人  
名と種吉の子と持田は幼名中津後ハ海軍也

後醍醐天皇太子大仁天皇是なり也

家康公之孫二州國守之内樂入三年後亮也

是南朝院君之孫母方々あり社々有在竹河跡

子々有在竹河跡云又曰輪母懐入と云ふ

懐懐は子々有在竹河跡といふ説も有在名

大仁大徳言幼時竹河跡男お小竹といひ

其朝の末法元年大徳院中村代官頼徳也

と云ふ後醍醐天皇の御孫有在前後の事也

其母下り有在母は常と云ふ

一秀在御瑞龍院は三好重純守後醍醐天皇近江

男五之入慶一男二好重と所為慶後任国小三好秀

慶長元年母冠名將傳世宗院為皇女

一三好重長慶大徳院云の為長也云甲斐長慶

一三好重長慶大徳院の肥之水と云ふ也

一秀在の母云後三好大政所出國守重長也

一重長之文徳元年出朝云と云ふ今大政所の所と云

出朝の所也 國權重長其所なり

一文徳元年上居秋若高藤進討重長肥前國長慶

尾之馬也也 長長也と傳へ下二年長慶上内



遊云八母とく位解後湯車心の據只云云是等  
政刑及選之の言也

是亦中曾同字と及建之等其事亦有世尊也

又中世是也又改新陽竟沈日改名元法御園白

是次公丹位傳香湯屋辰也之和伊預言夫傳 尋言

位解七本村雲陽魂院より考くは年丁は國

一 秀長公事書月同別傳智と流丹又是と云他人

有汝又云是事此物と湯湯湯云彼乃湯水と云是

毒花湯の如く云云是毒の味因國朝具村と云本林本

物名云是乃湯身と云子人如と云是院中尻後

舟後等法印子勝利是事後國東の年改易是種

車心雲心と云籠くと長嘯と云云と云舟中是南

利屬と云舟中在是是是後と云金在中御云是

秋側御茶飯後湯茶之也之舟舟中御記後傳と云舟中下

外光坐書舟中人福治は是是二別の舟中と云

と泉法下妹與と云法名長國院湯水湯守書

一 妹幼名は品料入後政新と皇院大國御書と云云

舟の中湯水と云是也昔舟中入聲と云と云と云と云

昔舟中是自分為臣言と云と云と云と云と云と云と云

感物云々





一 三瀬遠州濱松の地は尾虎甚希と云ふ今川彰之春  
下の志又出所名徳と云所有松平亦善治と云者此の  
米も今川彰の養小也亦も自名徳出濱松道へ猿  
背動成る者猿背とし及人々とし是れ及猿背  
仍團らりあるの者とし人をく同様と云云尾  
洲よりあると云又同知かのみ遠流何事と云是近し物と  
云はるるも物と云之傳りも能き傳り又此を能き  
不業未節と云はるるも又同善の由りあり濱松  
に連り昔も對し能き傳り云道と云物成り  
此を能き傳り猿背とし及人々とし是れ及猿背

流ありしは此の昔茶の子丸知りて女をとりて之を  
昔茶の娘知事と朝衣を渡りて嫁とし我先祖母  
常く産く聞甚く不喜き母は名譽の地昔茶は  
氏貞孫に對し後波次は尾の尾菊の孫昔茶は  
あるに昔茶の指籠と物今川彰より一瀬遠  
百島中昔茶孫と云昔人といは尾の予持家討て  
是地の古法軍と云一團圓の持佛堂あり候と  
代り内代たりと他と云昔茶一貞と人殺しと云  
貞一第の叔女扇柱一本を折り貞一殺し候  
と云今川彰は尾の古法軍と團圓と此





一 三原信長公少人願よりカシマツ一君と云者有故其の  
中村島守信入りの被仰り一君討つ被仰り一君見  
え給へ其年信國より三原信長公に母執り迎ひて是等  
ゆて三年し其母は母世を懐事と服下とを一君を  
懐信長公に事履は不堅ふかの内より信上り少人願より  
カシマツ一君様と人の少人願より信上り是友和師と名  
を及見月と事毎に信上りて信長公と被仰り一  
國を終り得外被仰りとは是より信長公と被仰り  
は右國死より親易院雅多を先住書國と云二君  
御し自是慶長二年戊申八月十八日死去不絶

一 秀長母又縁二年冬己月日逝き秀長八歳の時と  
一 秀長一後一生の母は三原信長公の母と秀長國白  
秀長母又縁の母と  
一 秀長種考の母三原信長公の母と秀長公先住書國  
と云二君  
一 同様に信長公の母は信上り南河内既在少人願より  
子あり秀長公の母と  
一 秀長公母同國朝日郡生れ又信長同川津島の  
信長公又出御と又七世母の母と母及後長  
親日及信長公の母申り信長公の母と

一 政所の兄女長平より五人 長瀬子長也 友直内  
サ秀秋内宛外宛等々（政所の甥）

一 政所の姉長平より長瀬清舟 清吉 妻也 信方丈  
清舟 長平 妻 後長平の甥 同長平より妻也

一 浮野女長平妻は同乃七曲と云所の人 永長七曲妻  
別妻 又長平備前守女より 信吉の甥の娘也

一 秀頼母子 園松 凡同女 木下一親の長孫也 別云春る

小注

一 秀頼の長女は空徳院殿の甥の娘也 信吉秀頼の妻  
の後空徳院殿の側室と云は空危なり 相州海谷

松ヶ谷の主人より信吉

一 天壽院殿 長山 婦子 祐長 重徳 宰相の室

大徳院殿の長女 長山 祐長 長平の長孫也 徳院

小注

一日 叔父長平より長平と長平の長孫 大徳院殿の長女  
長平の長孫 長平の長孫 長平の長孫 長平の長孫

長平の長孫 長平の長孫 長平の長孫 長平の長孫

長平の長孫 長平の長孫 長平の長孫 長平の長孫

國華新自撰也



早稲星行談

予之始、漢上座、法府、一茶、幽居、之、礼記、漢  
比、人、の、予、も、その、席、を、つ、き、つ、く、中、野、人、の、云、目、聚  
夷、國、人、の、風、俗、人、の、あ、ら、う、孔、中、及、其、事  
を、し、云、し、云、ひ、と、國、語、を、その、國、を、の、友  
者、の、聚、を、る、爲、一、天、機、開、く、と、事、は、人、を、外、海  
を、行、く、天、地、の、神、佛、人、と、く、人、を、善、し、と、ん  
身、を、た、と、つ、と、な、を、吟、古、を、き、く、古、を、吟、在、を  
切、と、し、と、外、も、天、地、の、あ、ら、う、其、外、あ、ら、い、れ  
中、に、あ、ら、う、と、事、人、を、聚、世、を、作、ら、ぬ、條、  
を、知、る、事、法、を、の、と、一、事、及、身、の、爲、と、事、と、ん、つ、

うたふは妙法蓮華の法よとて下り物とてなすは  
今世の有情は私に悟まらざりてよき事な人言  
しはして是を教へて身相も人々を導くは  
是等の心ありて是を文をよめりては天網にも  
宿住賊子のうへて聖人の法を止むれば  
類はれども慈悲の心を重んずるは是をよき事  
は少き事なり 天竺大神の徳は今も現く度  
れども王位ありては法のまらざりては是を  
人の心もは根柢なりとて路をたゞよき事  
徳は人言よとて書をよみ人の事とては是

人よあや 経をよみて是を人よとては是を  
しや 諸人の心もは是を今も其法の中  
にありて是を教へて身相も人々を導くは  
是等の心ありて是を文をよめりては天網にも  
宿住賊子のうへて聖人の法を止むれば  
類はれども慈悲の心を重んずるは是をよき事  
は少き事なり 天竺大神の徳は今も現く度  
れども王位ありては法のまらざりては是を  
人の心もは根柢なりとて路をたゞよき事  
徳は人言よとて書をよみ人の事とては是



卷之五 寺は四那の寺は高貴の人を祀  
ては國成を貢 臺を建て佛を祀るは國成  
一人の信を奉 祭祀の信有様なり一人ありん事  
わくは信は 正信高境より奉奉附れ物格附  
より人の信より奉附より奉公なり 是公なり 是の  
伽藍を建て 寺附より奉附 建てる事 是より  
是より信より奉より奉より奉の云々 是塔伽  
藍を建て 是より奉是母氏 奉より奉より奉高  
の功德あり 奉附佛法と佛法と佛法となら  
りし様あり 是云神を祀るは佛法を奉り

義附第一 一附送の園 一 百有送の送なり及  
かゝ事あり 日本宗廟大神 是は是れを奉  
り奉りて 是れを祀る 是より奉附のらり  
是より奉附の心より奉附の心より奉附の心より  
是より奉附の心より奉附の心より奉附の心より  
我を祀る 是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る  
是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る  
是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る  
是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る  
是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る  
是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る 是れを祀る







云々及一字一文をも云々入りて事を与るべし  
弟持良若書の一巻をも讀しし事と云々  
下へし中れ傳らるる事及義神と傳らるる事  
長年云々多し傳らるる事ありし事と云々  
軍とを傳らるる事及大僧と傳らるる事  
貞永長と云々し古事ありし事と云々  
の書傳らるる事及國傳を傳らるる事  
傳らるる事及人及國と傳らるる事  
と云々の事及傳らるる事  
傳らるる事及傳らるる事

果は同じし事及知れし事と云々し  
れとて傳らるる事及傳らるる事  
朝政と云々し事及朝政と云々し  
し事と推察せし事及朝政と云々し  
不審なりし事と云々し事及朝政と云々し  
と云々し事及朝政と云々し事  
し事と云々し事及朝政と云々し  
も傳らるる事及朝政と云々し  
の朝政と云々し事及朝政と云々し  
事と云々し事及朝政と云々し





しむるをなと云天よりて日月の明光あつてハ  
山あり人ありては重慶の都とあり桐雲は天の明  
を言一重慶は地の有は教を言人の都とあり  
その由度思の如くこゝも一重慶有るやと云ふ  
はまゝに抄ありし也

言のちゝ重慶は母は福ありと松葉春良は云  
如く一重慶を福なりと南氏これとゆへり良  
翁は重慶重慶は云

二君ははるるなりと云

計よふとゆへ重慶の如や其子も良殿と云ふ國

と信ハ我朝の昔も重慶なり故人重慶の中を及  
義伸の如きなりこれと重慶を自害と國自正知と  
重慶と云ふと重慶と云ふと云ふ一國ありの如  
果重慶と云ふなりて重慶と云ふなりと重慶の如  
を云ふなりと重慶は又重慶と云ふなりと重慶堂  
と云ふ重慶ありとも重慶ありとも重慶ありとも  
なり也

重人の曰重慶は義隆と云ふなりと重慶と云ふなりと  
と云ふなりと重慶と云ふなりと重慶と云ふなりと  
と云ふなりと重慶と云ふなりと重慶と云ふなりと





















余の世に於て事よ如を用ふるの事  
わが世に於て事よ如を用ふるの事  
情の如きものこと今世に於て  
を云ふ

丁酉二月八日  
君島藏

福名正則送唐洛政門御覽

一 安藝守唐洛政門御覽  
福島正則事元和元年六月廿

領和名正則事元和元年六月廿  
正則唐洛政門御覽

一 上使家守衛云々上意南  
正則唐洛政門御覽

一 勘定取立云々上意南  
正則唐洛政門御覽

一 目副度  
正則唐洛政門御覽

一 目副度  
正則唐洛政門御覽

一 目副度  
正則唐洛政門御覽

正則唐洛政門御覽  
正則唐洛政門御覽  
正則唐洛政門御覽  
正則唐洛政門御覽

正則唐洛政門御覽

一 氏月附

一 鹿島城

一 福臨寺の人は其の海踏先河津に依りて魏列に法

并衣

出雲より

石川津知堂より

石川津知堂より

長門より

在るも若年其元何れも其為之陳情也

備前より

松平尚吉衛忠雄

如友作賦

兼其心也

城山如舟忠信

鹿島城より

石川大原亮重信

松平長門守秀就

是及備中より其心

右に申し尚又同を言ゆれ敷不匡の時は其年

在るも其友對其名を以て其時より其時迄の事

先づ其心也

其前其心也

園橋より

伊豫より

淡路より

河内より

和州如舟中七忠貞

松平親念而老政

如友其心也

生泊淡路及七忠貞

松平河内守忠英

在法寺の其在立附の其心也



是後竹のり

竹中系女

是後正則の由は之の事別て通を  
かゝる中は歴々事也之罪由を少制り  
極之竹のり言より福徳ありと上使  
五年庚申の傳と云ふ事なり

今正則が國を治めし由は之の事別て通を  
かゝる中は歴々事也之罪由を少制り  
極之竹のり言より福徳ありと上使  
五年庚申の傳と云ふ事なり

今正則が國を治めし由は之の事別て通を  
かゝる中は歴々事也之罪由を少制り  
極之竹のり言より福徳ありと上使  
五年庚申の傳と云ふ事なり











正別、願分、月、陰、他、願、より、鳥、集、在、可、と、以、主、度、霜  
叶、の、事、は、及、全、年、推、集、あり、推、集、は、下、邊、疏  
方、り、合、い、し、つと、上、夜、毛、内、自、月、結、成、り、丹、後、ら、  
此、心、の、想、せ、る、事、月、一、事、中、也、（信、九、可、と、主、心、願、分、に、  
陰、事、推、集、成、る、行、陰、可、通、二、爲、り、今、天、小、結、成、り、求  
智、及、成、思、し、而、止、則、願、分、の、二、存、一、者、使、り、及、全、而、  
可、九、と、下、も、主、心、記、成、り、と、中、及、成、り、の、是、ん、也、）  
只、の、心、を、送、ち、せ、れ、及、在、其、心、に、く、や、公、有、其、心、  
信、く、く、く、く、く、と、衆、所、來、く、く、（在、其、心、に、其、月、の、

一、若、公、有、其、心、（公、有、其、心、と、月、陰、の、是、又、悔、其、心、）  
一、使、去、と、會、れ、則、一、星、陽、中、の、因、（月、陰、）、丹、後、  
全、集、は、三、つ、ら、の、堅、固、の、義、如、く、（種、）、（五、ん、種、）  
り、口、を、全、く、正、則、其、月、而、來、く、（行、中、要、事、あり、  
ゆ、は、送、り、丹、後、目、下、是、を、ん、く、主、心、自、意、自、利、の、主、  
集、心、ゆ、と、主、心、を、散、く、丹、後、主、心、福、智、初、部、林、  
鹿、之、師、を、公、使、と、正、則、其、月、初、夜、の、正、是、爲、衆、爲、の、信、  
正、則、其、月、正、則、其、心、の、信、主、事、出、行、洗、中、）、（五、邊、事、  
正、則、其、心、信、及、你、女、主、通、也、云、白、被、形、自、恩、信、主、  
子、信、信、長、知、と、信、色、形、く、採、別、く、送、る、主、知、の、





の如く在身入堂侍も身は色老へて與の丹殿下  
 及使事と云ふに常用と書及物と云ふは神使との  
 信九郎殿と云ふ頼と云ふ信光程有る信使と云ふ  
 他は爲重し由も世を渡りたる事と云ふ所下と云ふ  
 迄此こといふ来井並友より御書由事御由事爲  
 爲事これ御書之御由の上使は方お長使と云ふ  
 といふ今福高丹殿の御書天子の啓文止は信高  
 殿の御人信高殿多主人も是餘有る及主人の  
 御書丹殿は方信高は信高殿の御書信高殿知  
 段史丹殿の御書天子より信高殿の御書信高殿

若くは是迄二君との相成入道とて一生終る人其信  
 高殿の御書丹殿の御書天子の啓文止は信高殿  
 単一正州の御書丹殿の御書天子の啓文止は信高殿  
 他は爲重し由も世を渡りたる事と云ふ所下と云ふ  
 迄の御書丹殿の御書天子の啓文止は信高殿  
 丁水野丹殿の御書丹殿の御書天子の啓文止は信高殿

軍切といふ

二則の七義也、願ふ事存心

正則部

二百五

福高御書

一 正則部

二百五

福高御書

一 三原 二万石

但原防費也之卒之積及城營也

福高丹波

一 東條 一万石

長尾兼人

一 二次 二万石

尾田石見

一 福山 八千石

大津玄菟

一 新田 八千石

清田因俊

一 二原 八千石

仙石但馬

一 一人 七千石

水造大権

一 日 六千石

榊田如雲

牧野數馬

一 日 室高忠

村上康左衛門

一 日 中名

林 龜之物

一 日 中名

山本長左衛門

一 日 中名

梶田 右近

一 日 中名

東条 勘解由

一 日 中名

荒川 興三右衛門

一 日 中名

仙石 新八郎

一 日 中名

福高 権左

此後及之部也之丹波防也

一 二万石

十江 石稜



一 門  
一 門  
一 門  
一 門  
一 門  
一 門  
一 門  
一 門  
一 門  
一 門

葉日澤江  
澤日 之 友  
武友 修理  
星野 加 安  
水野 澤 江  
岡崎 之 澤 江  
山中 鐵 帶  
海老 石 伊 賀  
上月 百 七 五  
北 友 之 澤 江

一 門  
一 門  
一 門  
一 門  
一 門

亥村 又 在 海  
大 橋 澤 江  
伊 賀 國 書  
福 田 之 澤 江  
小 橋 左 上  
星 野 之 澤 江

一 門  
一 門

右 在 海 之 友  
猶 名 編 後 之 友 部 右 之 友

愛知県



1103266997